



こころざし

【学校教育目標】
夢の実現に向かって たくましく
挑戦する児童生徒の育成

唐津市立加唐小中学校

第 11 号

令和6年10月15日発行

文責 校長 多久島 一仁

小川小中学校でスピーチや体育の交流をしました

10月7日（月）に小川小中学校に行き、交流学習を行いました。小川島へ行くのは2年ぶりで、子どもたちは他の島に行けるのを楽しみにしていました。スポーツの種目は、小学生はボッチャ、中学生は風船バレーを行いました。

ボッチャは作戦を考える場面もあり、チームでアイデアを出し合いました。風船バレーは友達の名前を呼びながら行ったので、お互いの名前を覚えることができました。

スピーチ交流では、小学生は4年生が韓国について調べたことを、中学生は1年生と3年生が「海洋ゴミについて考える」というテーマで、今年度、海洋ゴミについて学習したことを話しました。小川中も昨年度、海洋ゴミなどについて学習されており、そうした内容のスピーチをされました。加唐島は何mもある海底が透き通って見えるほど美しい海ですが、多くの海洋ゴミが流れついています。9月25日には加唐島をデザインしたキーホルダーを作りました（ペットボトルキャップをアップサイクルして）。小川中学校も昨年度、海洋ゴミについての学習を行っており、お互い、自分たちが住む美しい海や島を守ってきたいという思いを強くもちました。



国スポバスケットボール観戦

10月10日（木）に唐津市文化体育館で行われた国スポの少年男子のバスケットボールの試合を観戦しました。最近、昼休みに体育館でバスケットをする児童もいて、関心は高まっていたようです。



この日は皇族の方もご臨席されるという特別な日で、厳重な警備の中、観戦しました。会場に入るときには、ペットボトルや水筒の水を一口飲んでから

危険な液体ではないことを証明して入場するというセキュリティ対策が行われていました。

試合は、東京都 VS 石川県、滋賀県 VS 岡山県の対戦でしたが、どちらの試合も点差があまり開かない好勝負でした。高校生とはいえ、プレイもスピードと迫力があり、ワンゴール決まるごとに歓声が上がっていました。

今年度は唐津青翔高校との交流もあり、何かと高校生に縁のある一年のようです。子どもたちも、あと数年したら、こうしたたくましい高校生に成長するのでしょうか。

能登半島豪雨に係る募金活動を始めました

令和6年9月21日から23日にかけて発生した能登半島豪雨では、奥能登地域を中心に河川の氾濫、土砂災害が多発し、14人が死亡し1人が行方不明となるなど甚大な被害が発生しています。その中には、中学3年生の生徒も含まれていました。

この状況に対し、9月28日の唐津地区中体連駅伝競走大会の開会式の中で、第一中学校と第五中学校の生徒会代表から、「被災地域の支援のため、唐津地区の各学校生徒会で募金活動に取り組みましょう」との呼びかけがありました。この呼びかけを受けて同日に臨時自主校長会で協議し、唐津地区生徒会の取り組みとして募金を取りまとめて義援金を贈りたいということになりました。

この活動を受け、加唐小中学校でも、ゆうき会で募金を呼び掛けることになりました。近年では加唐島も台風の被害を受け、学校施設にも影響が出ています。また、子どもたちも能登半島の状況をニュース等で知り、心を痛めているようです。

私たちの募金が少しでも復興支援に役立ち、能登半島の皆さんが一日でも早くこれまで通りの生活を取り戻されることを願ってます。

